

海外の話題

香港のワイン事情について

農林中央金庫 香港駐在員事務所長 松尾 章

香港はご案内のとおり、1997 年まで英国の統治下にありました。そうした経緯もあってほとんどアルコールを飲まない香港人でもややハイソな香港人は高級レストラン等でワインをたしなむ姿を良く見かけます。香港はわずか 2 年前まで 80%の関税をワインに掛けてきましたが、昨年 40%へそして今年 2 月には、関税を撤廃しました。背景には、香港はアジア随一の貿易中継地点であること（世界人口の約半分（約 30 億人）に 5 時間以内で物を輸送できる地理的優位性）、背後に今後巨大市場として発展が見込める中国大陸があることなどとともに香港政府は今後の貿易戦略として「アジアにおけるワインの貿易・流通のハブ（拠点）を目指す。」構想を掲げたことがあります。この具体策として関税ゼロを打ち出したわけです。今年 4 月には香港で初めて国際ワインオークションが開催、5 月にはアジア最大のワイン・蒸留酒展示会 (VinExpo) が開催、8 月には香港貿易発展局 (TDC) 主催による香港国際ワインエキスポが開催されるなど、アジアのハブとしての地位固めを進めてきています。

こうした効果もあり、ワイン関税撤廃以降上期の香港ワイン輸入額は前年同期比 2.4 倍まで急拡大しました。また香港での輸入国 No. 1 であるフランスとは政府間で「ワイン事業提携覚書」を締結するなどワインハブ構想が加速してきております。欧米系のワインメーカーによるアジアのワイン物流拠点を香港へ置こうという動きも活発です。統計が少々古くて恐縮ですが、07 年の香港におけるワイン輸入量は 2,237.8 万 k l でこれは前年同期対比 3 割弱の伸びとなっております。ちなみに日本からの輸入はわずかに 4 万 k l ですが、伸び率は 40%と 07 年輸入国最大の伸び率を記録しています（出所：香港統計処）。ミクロ的に見ても、日系スーパーで欧州ワイン主要国からの小売販売打診があったりとか酒類コーナーを拡大する（これまでの販売ルートは主にレストラン経由）など消費拡大を展望する動きが出てきております。輸入国別では安価なこと、香港に地理的に近いことから豪州ワインが人気ということですが、実態はレストラン経由が大きいことからやはりフランスが最大の輸入国となっております。（後添グラフ参照）

ここで中国ワイン市場についても若干説明します。香港の背後にある中国のワイン生産は 2000 年以上の歴史（漢代）があります。シルクロードを経由して西域の葡萄を使った醸造が始まりで、元代には商業化が進みワイン文化も絶頂期を迎えたということのようです。明代には国策で白酒と紹興酒が推奨されたことからワインは低迷期に入りましたが、最近の沿岸地区の経済発展を機に再度ワインへ注目がいくようになったようです。実際 07 年のワイン輸入量は前年対比 125%増と過去最高を記録、中国アルコール市場におけるワインシェアも 06 年 6.6%から 07 年 10%程度へ拡大してきました。消費量も拡大しているものの一人当りに直すとまだ年間 1 本に満たない状態でその

市場潜在性には大きなものがあります。

香港政府では、2017 年にはアジア地区が世界最大のワイン消費地になると試算しています。世界全体に占めるアジア地区（除く日本）シェアは現在 7%程度ですが、毎年 10%程度のワイン消費量拡大が見込め、17 年には上記のとおり世界最大の消費地となると見込んでおります。このように香港は今年ワイン関税撤廃などニューヨーク、ロンドンに並ぶ世界のワインハブの一角となるべく具体策を打ってきております。実際近い将来香港は中国およびアジア全体のワイン消費拡大を背景に世界のワインハブになる可能性は大きいと思われます。

